

【日本民間放送連盟賞 優秀賞】 手話が語る福祉～聴覚障害者と歩んだ25年～

報道関係各位

「平成30年日本民間放送連盟賞」特別表彰部門 放送と公共性において、OHK岡山放送から出品した活動が優秀賞を受賞しました。OHKが特別表彰部門で受賞するのは平成6年「環境キャンペーン 見直そう！身近な地球」の入選以来2度目です。なお、表彰は11月7日（水）に東京で開催される「第66回民間放送全国大会」の式典席上で行われます。



事績概要

■事績名： 「手話が語る福祉～聴覚障害者と歩んだ25年～」

■実施期間： 1993年2月～ 継続中

■内容

聴覚障害者を取り上げた話題を同じ障害のある人にも見てほしいと、画面に手話を入れたニュースを始めたのがこの活動のきっかけです。当初は聴覚障害者への情報提供が目的でしたが、健聴者に対して聴覚障害者を理解してもらうための放送にしようと、健聴者にはない手話という言葉大切に、継続してきました。

月一回のニュース企画「手話が語る福祉」は、福祉をテーマにした話題を手話通訳付きで放送しています。当初、手話通訳は健聴者の通訳者が務めていましたが、1998年からはより分かりやすく伝えるために、聴覚障害者が表現するようになりました。関係団体とともに手話放送委員会を立ち上げ、今も月一回の定例会議を開催し、よりよい放送となるよう協力して取り組んでいます。

担当キャスターが自ら手話を覚えてスタジオやVTRで伝えるのも大きな特徴です。女性アナウンサーを中心に11人が担当してきました。手話は聴覚障害者にとって言葉であり、その言葉を大切にし、こだわりを持つアナウンサーが真剣に向き合ってきたことも、この企画が25年も続いた理由の一つです。

手話通訳の導入は、ニュースから番組へも発展し、聴覚障害者のアスリートに密着したドキュメンタリーのほか、週一回の報道特集番組では10年にわたってスタジオ部分に手話を付ける取り組みを続けました。また最近では、OHKスタジオがある大型商業施設イオンモール岡山で従業員を対象にした手話講座も開催し、手話の輪を広げています。

岡山県内では2017年から2018年にかけて6つの市で手話言語条例が制定され、OHKが伝えてきたメッセージがより強く受け入れられたと実感しています。今後もこの25年で築いた聴覚障害者との絆を生かし、地域で手話の普及が進むよう地道に活動を続けてまいります。是非ご取材いただきますようお願い申し上げます。